ほのか診察室

HONOKA Consultation room

シリーズ 第84話

前立腺がんとPSA検査

市民病院
泌尿器科医師
鈴木 明彦
青木 高広
高田 三喜
監修

前立腺がんとは・・・

前立腺は、男性だけにある生殖器のひとつで、クルミほどの大きさで膀胱の出口、尿道の始まりの部分を取り囲んでいる臓器です。前立腺が分泌する前立腺液は精液の一部となり、精子にエネルギーや栄養を与え、運動を助けて卵子と受精しやすくする働きをします。「前立腺がん」はこの前立腺にできたがんを言います。一般的にはほかの臓器のがんと比べて成長の速度が緩やかであるため、早期に発見できれば治りやすいがんであると言えます。しかし、初期には自覚症状がほとんどないため、発見が遅れることがあります。がんが進行すると、血尿が出る・尿が出にくい・排尿時に痛みを伴うなどの排尿症状が出ることがあります。しかし無症状のまま別の臓器へ転移することがあり、さらに骨転移が進むと「腰が痛い」などの症状が現れます。数年前まではこの時点で初診する患者さんが多くみられました。

もともと前立腺がんは日本で多くみられるがんではありませんでしたが、近年、患者数が増えています。男性の罹患率では、胃、肺、大腸に次ぎ4番目に多いがんですが、このまま増加すると、2020年には2番目に多いがんになると言われています。前立腺がんが増加している背景には、近年の高齢化・食生活の欧米化による動物性脂肪の摂取量増加などが挙げられます。またこれらの生活習慣の変化だけではなく、近年の「PSA検査」の普及が前立腺がん患者発見の増加の一因になっています。つまりPSA検査によって、自覚症状のない、また触診や超音波検査では発見することが難しかった早期の前立腺がんを発見できるようになったのです。

PSA検査

PSA検査は、採血のみの検査で、血液中にある前立腺に特異的なタンパク質の一種「PSA（前立腺特異抗原）」の値を測定します。PSAは健康な状態でも前立腺で作られていますが、異常があると血液に漏れ出てきます。前立腺がんがあるとPSAの血液中の量が急激に増えてくるので、がんの早期発見に役立ちます。PSAが高い場合に考えられる疾患は前立腺がんのほかに、前立腺肥大症、前立腺炎などがあります。そのため、PSA値が高値となった場合は泌尿器科を受診し、直腸診や超音波検査などを行い前立腺がんとそのほかの前立腺疾患との鑑別を行います。

また前立腺がんの危険因子のひとつに「年齢」があります。50歳を過ぎると罹患率が急激に増加します。PSA検査は採血だけで自覚症状のない早期の前立腺がんなどを発見することができます。また病勢を反映して高値となったり、さらに治療に反応して低値になったりと、適切な治療効果を判断するための良い指標にもなります。まずは早期発見のため、年に1度の定期的な検査をお勧めします。

問 市民病院総務企画課 TEL 23-7852